

研修報告書 No. 5

所 属：大阪医科薬科大学病院

研修先：梶原病院

地域医療研修を行うにあたり、せっかくなのでこれまで旅行などでも訪れたことがない、特に馴染みのない地域での研修を行ってみたいという考えのもと、2024年5月の1ヶ月間、梶原病院での研修を行いました。

梶原町は高知県北西部の山間部に位置する人口約3000人の町で、梶原病院は町内最大の病院であり、救急医療も含め、町内全域の医療を担っています。病床数は30床程度で、血液検査、エコー、心電図、CT、レントゲン、消化管内視鏡などを検査できる設備を備えています。常勤の医師は3名で全員内科医ですが、内科診療だけでなく創傷処置などの外科対応も行っています。他にも各種検査を必要に応じて自ら行っており、非常勤の医師数名や看護師・臨床検査技師・薬剤師などの方々と協力し合って日々の診療業務を回していました。できる検査や治療には限りがあるため、重症度によっては高知市や愛媛県の病院への搬送を行っており、高次医療機関も含めた他医療機関との連携を密に行っています。

院内の研修では、病棟管理、外来診察、創傷処置、臨床検査などの一連の診療に従事しました。特に大学病院の研修だとあまり経験する機会のない創傷処置に関して多く参加することができました。上級医や看護師の方々に丁寧な指導・助言により、縫合などの手技が上達ただけでなく、個々の創傷や褥瘡などに対して、洗浄や壊死部分の切除を行うかどうか、被覆材として何を選択するかなどの処置の仕方を学べたり、同じ人の創傷を連日診ることができたので、創傷治癒の過程などを体得することができました。また、臨床検査室では採血管を遠心分離にかけるなど臨床検査の作業を実際に経験し、普段の大学病院で提出している検体から実際にどのように作業をしてデータを検出しているのかを学ぶことができました。

また、梶原病院外での診療も多く経験することができました。近隣の特別養護老人ホームや障害者施設といった各施設への週一回の訪問診療では、身体診察したり、胃瘻や尿道バルーンの交換を行ったり、時には老衰の方のお看取りも経験しました。また、季節が5月ということで、梶原町内の小・中学校、高等学校の生徒に対する健康診断も梶原病院の常勤医師が主体になって行っており、私も実際に参加することができました。梶原病院はこうした近隣施設への診療を定期的に行うなどして予防医療に積極的に取り組んでおり、住民の健康を支えています。

ほか週に1回、ケアプラン会というものが院内で開催されており毎回出席しましたが、ここでは医療・行政・福祉・介護など多職種の方々が参加しており、例えば現在入院中の患者

さんの中からピックアップして、現在の ADL から退院後には施設サービスなどが必要となりそうな方について検討したり、既に退院されている患者さんについても検討する必要があります。そうな方の療養環境・生活状況について報告・情報共有をしています。こうして個々の患者さんのフォローアップ体制を充実させるほか、在宅支援の必要な地域住民に関する情報を共有しており、地域住民 1 人 1 人が安心した日々の暮らしを可能な限り人生の最期まで続けていけるような体制を、地域全体が密に連携することによって作り上げていることが分かりました。

以上のように今回の地域医療研修では大学の初期研修では中々できない、非常に新鮮で、得難い経験をすることができました。そして、地域に根差した医療というものがどういうものかということを深く実感することができました。

1 ヶ月間大変お世話になりました。梶原病院及び近隣診療所の医療関係者や事務の方々、並びに高知医療再生機構の方々に御礼申し上げます。私は今回の貴重な経験を糧に、医師として更に精進していきたいと思っております。